

市制施行 100 周年事業スタート
“福山とんど祭り”に参加しました。

とんどの風習は福山築城（1622 年）に伴い、盛期には城下で 36 基におよんだといわれる。この度は市制施行 100 周年事業として福山市営競馬場跡地を会場に行われたもので、数こそおよばないものの各学区が協力、その内の 1 基を西・南・霞学区合同で作成したものです。

昨年の 12 月 27 日に材料の竹は箕島学区、藁は川口学区より会場に持ち込まれたものを、本庄中町内会の金藤さんを頭として 20 数名の参加者で作りました。

竹を骨組みに土台を組み、足場をつけて、一番上に笹、その下に藁の“タイコ”（みかんで祝 100 と飾り付け）を付けて、藁で作ったしめ縄を上から巻きつけるといった素朴な形の“とんど”です。

1 月 17 日（日）の 3 時過ぎにステージでの催しものの後、会場を 3 基の“とんど”が練り歩き、もとの位置に戻ったのを合図にそれぞれの“とんど”が点火され、下から炎が上がり“とんど”全体をつつみ燃え落ちて終了となりました。

